

皆様おはようございます。

先週は聖霊降誕を記念する礼拝の時を過ごしました。

聖霊が降り、習いもしない言葉で神の偉大な御業を語る弟子たちに、人々が嘲って言った、「彼らは新しい酒に酔っているのだ」という言葉は、まさしく真実でした。

2:17 『神がこう仰せになる。終りの時には、／わたしの霊をすべての人に注ごう。そして、あなたがたのむすこ娘は預言をし、／若者たちは幻を見、／老人たちは夢を見るであろう。

2:18 その時には、わたしの男女の僕たちにも／わたしの霊を注ごう。そして彼らも預言をするであろう。

2:19 また、上では、天に奇跡を見せ、／下では、地にしるしを、／すなわち、血と火と立ちこめる煙とを、／見せるであろう。

2:20 主の大いなる輝かしい日が来る前に、／日はやみに／月は血に変るであろう。

2:21 そのとき、主の名を呼び求める者は、／みな救われるであろう』。

終わりの時、主の日、裁きの時、「そのとき、主の名を呼び求める者は、みな救われるであろう」とのこの言葉は、真実です。

1 ペトエルの子ヨエルに臨んだ／主の言葉。

その被害は見たこともない、思い出せもしないすさまじいものである。そういう出来事が起こると、ヨエルは預言しました。

2 老人たちよ、これを聞け。すべてこの地に住む者よ、耳を傾けよ。あなたがたの世、またはあなたがたの先祖の世に／このような事があったか。

3 これをあなたがたの子たちに語り、子たちはまたその子たちに語り、その子たちはまたこれを後の代に語り伝えよ。

いなごが襲い掛かる。

4 かみ食らういなごの残したものは、群がるいなごがこれを食い、群がるいなごの残したものは、とびいなごがこれを食い、とびいなごの残したものは、滅ぼすいなごがこれを食った。

中近東では十数年に一度いなごによる大規模な農作物への被害があり、現在に至るまで被害をもたらしています。1958年、サバクトビバッタの発生においては、1立方メートル当たり17匹、個体数500億匹、重さ11.5万トンという観察結果が報告されています。

東日本大震災による大津波の時、数百年も前に大津波が起こった時の石碑が語っていたこ

とが大々的に伝えられました。躊躇せず、立ち止まらず、高台に逃げよ、子々孫々たちよ、私たちの経験から学びなさいと石碑は語っていました。

ヨエルもまた、このいなごによる未曾有の悲劇を「あなたがたの子たちに語り、子たちはまたその子たちに語り、その子たちはまたこれを後の代に語り伝えよ。」、いつまでも忘れずに、主からの警告を覚えて身の処し方を考えよと預言しました。

5 酔える者よ、目をさまして泣け。すべて酒を飲む者よ、うまい酒のゆえに泣き叫べ。うまい酒はあなたがたの口から断たれるからだ。

6 一つの国民がわたしの国に攻めのぼってきた。その勢いは強く、その数は計られず、その歯はししの歯のようで、雌じしのきばをもっている。

7 彼らはわがぶどうの木を荒し、わがいちじくの木を折り、その皮をはだかにして捨てた。その枝は白くなった。

この猛烈なるいなごの急襲によって、来るべき災いを思い、主の前に立ち返り、主の名を呼ばわるべきである。恐ろしい捕囚の出来事の来る前に、このいなごの出来事の起こるうちに、より大きな恐ろしい出来事が及ぶ前に、心して過ごすがい、この出来事による主の教えを無にしてはならない。酔える者よ、うまい酒だ、うまい酒だと言って過ごしてられるのもこの時限りで、それは口から断たれる。いなごが攻め上ってくる。その勢いは強く、その数は計られず、その歯はししの歯のようで、雌じしのきばをもっている。そういう、人の力ではどうすることもできないものが襲い掛かってくる。その時に人を何を思うか。何を考えて対処するかという事を神様はヨエルの口を通して語られます。

2 老人たちよ、これを聞け。すべてこの地に住む者よ、耳を傾けよ。あなたがたの世、またはあなたがたの先祖の世に／このような事があったか。

3 これをあなたがたの子たちに語り、子たちはまたその子たちに語り、その子たちはまたこれを後の代に語り伝えよ。

いなごによる襲来により、あらゆる収穫が途絶え、食べる物も、宮にささげる物も皆潰れてしまいました。何という悲劇でしょうか。あの豊かな穀倉地であったウクライナで今悲惨が、死が蔓延していることをも思い起こされます。

8 あなたがたは若い時の夫のために／荒布を腰にまとったおとめのように泣き悲しめ。

9 素祭と灌祭とは主の家に絶え、主に仕える祭司たちは嘆き悲しむ。

10 畑は荒れ、地は悲しむ。これは穀物が荒れはて、新しい酒は尽き、油も絶えるためである。

11 小麦および大麦のために、農夫たちよ、恥じよ、ぶどう作りたちよ、泣け。畑の収穫がうせ去ったからである。

12 ぶどうの木は枯れ、いちじくの木はしおれ、ざくろ、やし、りんご、野のすべての木はしぼんだ。それゆえ楽しみは人の子らからかれうせた。

若い時に夫を亡くした妻のように、嘆き粗布を腰にまとった乙女のように泣き悲しめ、1日の夕、毎夕捧げることが命じられていた、素祭と灌祭とは主の家に絶え、主に仕える祭司たちは嘆き悲しむと預言されます。

出エジプト 29:38 あなたが祭壇の上にささぐべき物は次のとおりである。すなわち当歳の小羊二頭を毎日絶やすことなくささげなければならない。

29:39 その一頭の小羊は朝にこれをささげ、他の一頭の小羊は夕にこれをささげなければならない。

29:40 一頭の小羊には、つぶして取った油一ヒンの四分の一をまぜた麦粉十分の一エパを添え、また灌祭として、ぶどう酒一ヒンの四分の一を添えなければならない。

29:41 他の一頭の小羊は夕にこれをささげ、朝の素祭および灌祭と同じものをこれに添えてささげ、香ばしいかおりのために主にささげる火祭としなければならない。

29:42 これはあなたがたが代々会見の幕屋の入口で、主の前に絶やすことなく、ささぐべき燔祭である。わたしはその所であなたに会い、あなたと語るであろう。

「わたしはその所であなたに会い、あなたと語るであろう」との主のおことばを頂きながら、ささげるべきものがなく、祭司がその民のための仲裁の取次が出来ず、神様からのお言葉の託宣をすることも出来ず、祭司もまた嘆き悲しむ時が来るとヨエルは預言しました。この悲惨の中、それを真正面からとらえて悲しみ嘆け。これが神様から祭司たちへの第一の命令です。

14 あなたがたは断食を聖別し、聖会を召集し、長老たちを集め、国の民をことごとくあなたがたの神、主の家に集め、主に向かって叫べ。

次に、「断食を聖別する」こと。聖なる者として、他のものと区別して、特別なものとして行うこと。この断食はほかのあらゆる目的によってなされるものではなくて、神様に向かうものとしてなされるという事。断食はひどい悲しみの時(サムエル上 31:13)や、神に向かって悔い改めて呼び求める切なる願いを成すときに行われました(サムエル下 12:16-23)。

サムエル上 31:11 ヤベシ・ギレアデの住民たちは、ペリシテびとがサウルにした事を聞いて、

31:12 勇士たちはみな立ち、夜もすがら行って、サウルのからだど、その子たちのからだをベテシヤンの城壁から取りおろし、ヤベシにきて、これをそこで焼き、

31:13 その骨を取って、ヤベシのぎよりゅうの木の下の葬り、七日の間、断食した。

サムエル下 12:16 ダビデはその子のために神に嘆願した。すなわちダビデは断食して、へやにはいり終夜地に伏した。

12:17 ダビデの家の長老たちは、彼のかたわらに立って彼を地から起そうとしたが、彼は起きようとはせず、また彼らと一緒に食事をしなかった。

12:18 七日目にその子は死んだ。ダビデの家来たちはその子が死んだことをダビデに告げるのを恐れた。それは彼らが、「見よ、子のなお生きている間に、われわれが彼に語ったのに彼はその言葉を聞き入れなかった。どうして彼にその子の死んだことを告げることができようか。彼は自らを害するかも知れない」と思ったからである。

12:19 しかしダビデは、家来たちが互にささやき合うのを見て、その子の死んだのを悟り、家来たちに言った、「子は死んだのか」。彼らは言った、「死なれました」。

12:20 そこで、ダビデは地から起き上がり、身を洗い、油をぬり、その着物を替えて、主の家にはいって拝した。そののち自分の家に行き、求めて自分のために食物を備えさせて食べた。

12:21 家来たちは彼に言った、「あなたのなさったこの事はなんのでしょうか。あなたは子が生きている間はその子のために断食して泣かれました。しかし子が死ぬと、あなたは起きて食事をなさいました」。

12:22 ダビデは言った、「子の生きている間に、わたしが断食して泣いたのは、『主がわたしをあわれんで、この子を生かしてくださるかも知れない』と思ったからです」。

12:23 しかし今は死んだので、わたしはどのようにして断食しなければならないのでしょうか。わたしは再び彼をかえらせることができますか。わたしは彼の所に行くのでしょうか、彼はわたしの所に帰ってこないでしょうか」。

そして「聖会を召集し、長老たちを集め、国の民をことごとくあなたがたの神、主の家に集め、主に向かって叫べ。」と語られています。

祭司は長老を集め、国の民を集め、総動員で聖会を、きよめの集いを行い、心を注いで主に向かって叫べとヨエルは預言して語りました。

「酔える者よ、目をさまして泣け。すべて酒を飲む者よ、うまい酒のゆえに泣き叫べ。うまい酒はあなたがたの口から断たれるからだ。」

今までうまく行っていたように思われたことはすべて鳴りを潜め、裁きの時、災いの時がやって来る。しかし、そのことを嘆き悲しみ、この時こそ主に向き直る時として、主の前に、ただ主の前に聖別して断食を行い、絶え間なき祈りをささげ、民の指導者も、民全体も主の前に聖会を開いて清めの集会を開いて主の名を呼ばわり、自らの罪を悔いて立ち帰り、きよめを願って祈りを捧げれば、道は開かれることが語られています。

- 15 ああ、その日はわざわいだ。主の日は近く、全能者からの滅びのように来るからである。
- 16 われわれの目の前に食物は絶え、われわれの神の家から／喜びと楽しみが絶えたではないか。
- 17 種は土の下に朽ち、倉は荒れ、穀物がつきたので、穀倉はこわされる。
- 18 いかに家畜はうめき鳴くか。牛の群れはさまよう。彼らには牧草がないからだ。羊の群れも滅びうせる。

災いと悲惨が蔓延っても、主の日、裁きの時、滅びの時が全能者のもとからきたり、逃れ場の内容に圧迫する時、目の前の食べ物は絶え、喜びと楽しみが絶え、種は朽ち、蔵は荒れ、食べる物はなく、家畜の牧草もなく、困窮に取り囲まれ、命の日ももはやこれまでと思う時。

- 19 主よ、わたしはあなたに向かって呼ばれる。火が荒野の牧草を焼き滅ぼし、炎が野のすべての木を焼き尽したからである。
- 20 野の獣もまたあなたに向かって呼ばれる。水の流れがかれはて、火が荒野の牧草を焼き滅ぼしたからである

この期に及んでは、主の向き直り、人の手にはどうすることも出来なくなったこの時に、ただ主に呼ばれるべし。

使徒2章

- 2:16 そうではなく、これは預言者ヨエルが預言していたことに外ならないのである。すなわち、
- 2:17 『神がこう仰せになる。終りの時には、／わたしの霊をすべての人に注ごう。そして、あなたがたのむすこ娘は預言をし、／若者たちは幻を見、／老人たちは夢を見るであろう。
- 2:18 その時には、わたしの男女の僕たちにも／わたしの霊を注ごう。そして彼らも預言をするであろう。
- 2:19 また、上では、天に奇跡を見せ、／下では、地にしるしを、／すなわち、血と火と立ちこめる煙とを、／見せるであろう。
- 2:20 主の大いなる輝かしい日が来る前に、／日はやみに／月は血に変るであろう。
- 2:21 そのとき、主の名を呼び求める者は、／みな救われるであろう』

主イエス様を神様は御恵みによってお遣わしになられたのに、その御子を人は受け入れずになぶりものにして十字架につけてしまった。この終わりの時。この人の罪の極限にまで届いた、恐るべき時。人があらゆる災いにもかかわらず、心をかたくなにして主の恵みを拒み、主を十字架につけて殺してしまったというその時、「これをあなたがたの子たちに語り、子たちはまたその子たちに語り、その子たちはまたこれを後の代に語り伝えよ。」と言われて

いたにもかかわらず、人は神様に対して最悪のことをしてしまったその時、悲しみも嘆きもせず、断食もせず、聖会をも開かずして人は頑なさの極みにあった時、酔える者は、目をさまさず悲しまずにすべて酒を飲み続ける者、私たちはどのように神様からのさばきを逃れられるというのでしょうか。

「血と火と立ちこめる煙とを、見せるであろう」

何とも恐ろし気なこの終わりの日の出来事。裁きの日の出来事。すべてが断たれ、どうにもこうにも立ち行かないその日。

終りの時には、／わたしの霊をすべての人に注ごう。そして、あなたがたのむすこ娘は預言をし、／若者たちは幻を見、／老人たちは夢を見るであろう。

そのとき、主の名を呼び求める者は、／みな救われるであろう

と、ただ憐れみにより、新しい生きる道が開かれ、主への呼び求めが聞かれ、霊が注がれ、喜びに満たされ、祭司が民が立ち上がる、その時が開かれるという事は、なんという恵みでしょうか。

私たちは、事あるごとに、あきらめずに、ただ悔いて主に向き直り、断食して心を注ぎ祈り、きよめの集いを開き、互いに執り成し祈り、そうして主の名を呼ばわって今週も、これからも進み続けたいと願います。

◇祈禱；天の父なる神様、今日の礼拝を感謝します。この時代に、先祖の時代を振り返ってもかつて一度も起こらなかったような悲惨な出来事が起こる時、それは主の前に集い、祈り、叫び、呼ばれる時。どのように悲惨がその度合いを極めたとしても、苦しみと悲しみにさいなまれたとしても、私たちは神様に呼ばれる道があることを知り、神様に耳を傾け、神様に呼ばれることを子々孫々に伝えていくべきことを教えてください、ありがとうございます。子供からお年寄りまで、あらゆる年齢の方々が、この時こそ教会にて、イエス・キリストに出会うことができますようお願いいたします。私たちの家族と、地域の方々を祝福

して下さい。主イエス様の御名によって祈ります。アーメン